

## 平成25年度 第1回 山梨県立美術館協議会 会議結果記録

日 時： 平成25年9月2日(月)

場 所： 県立美術館総合実習室

### 参加者：

委員 宇野五千雄、秋山弘、鶴田一香、古屋智子、大村智、堀田一朗、植松増美、甲斐陽子、佐々木晶美、齊藤文栄、阿部邦彦  
県教育委員会 堀内教育次長、田中学術文化財課長、古屋学術文化財課主査  
県立美術館 白石館長、酒井副館長、向山学芸幹、大関総務課長、名取総務担当主査、井上普及担当副主幹教育主事、五味普及担当副主査教育主事  
指定管理者 見目SPS総支配人、山本SPS支配人

### 議事

- (1) 平成24年度事業報告等について
- (2) 平成25年度事業等について
- (3) やまなし文学賞について
- (4) その他

### 議事録

新委員への委嘱状交付

教育次長挨拶

会長挨拶

館長挨拶

事務局職員紹介

事務局から会議資料により、議事(1)～(3)を説明

会長

事務局から説明がありましたが、委員の皆様には、質問・意見はありますか。

K委員

美術館については、県外の知り合いにも勧めているが、皆、山梨にあんなにいいものがあるとは知らなかったと喜んでいて、私も感謝しています。今、毎日のように残忍な事件が報道されていますが、社会全体で支えていくことが無くなって、デジタル化というか画一化してしまって、想像力が無くなって、どうしようも無いと

ころに来てしまったと思います。悪貨は良貨を駆逐するの例えもありますが、良貨に頼ってどうにかしなければならぬので、美術館にはプレッシャーですが、良貨の役割を担ってもらいたいです。デジタルに対して、芸術文化はアナログの代表のようなものです。この時代だから、若い世代に芸術文化の良さを分かってもらいたい。これは美術館だけの役割ではありませんが、美術館が有力なことは間違いありません。そんなことを、美術館の仕事に携わっている皆さんには意識してプライドを持っていただきたいと思います。

もう一つ注文ですが、美術館がどこに向かって進んでいくのか、中期計画というわけではありませんが、3年とか5年とか後を見据えた方向性、これは指定管理者も含めてですが、次回の報告書には示していただきたいと思います。量的なことではなくて質的なことで結構です。

#### 館長

ありがとうございます。今の最後のお話は、私も思っていて、方向性というのは重要と考えています。ただし、中期計画となると、ある分野に偏った事業に見えてしまう恐れがあります。今の美術館の事業では教育普及ですが、学校教育と深い関係がありまして、仕事量では、150%くらいになっていて、減らすことを考えなければいけない状況で、スクラップ&ビルドなのですが、教育普及事業は全てが、良い事業で担当としては、なかなかやめられないのです。他の施設と比べても事業が豊富なのに職員の数はとても少なく、これは田中課長にもお願いしたいところなんです。

それで、今後についてですが、企業との連携ができないかというのがあります。これは資金援助や広報などの期待がありますが、ここが弱いというのが問題です。もう一点は、中高年向けの普及事業を進めたいと思います。ある程度、お金も時間があるけど何をしたらよいか分からない、とっかかりがほしい人への働きかけが必要だと思いますが、先生のおっしゃるように、3年、5年での具体的な姿を示すというのは、難しいところです。

#### D委員

今のお話を聞いて、わたしも同感ですが、最近はテレビも週刊誌的な話題が多すぎると思います。本来マスコミの役割というか、社会にあたえる影響力がどこかに行ってしまうと、目先の飛びつきやすい話題ばかり取り上げているのは、日本中どこも同じで寂しい感じがします。

それは、それとして、今年は国文祭関係で美術館も多くの事業をやっています。僭越ですが、私は知事さんのもとで実行委員会の副会長をしています。多くの協賛事業が目白押しで感謝しています。また、指定管理者も多角的に活動していると思

いました。国文祭では山梨県が初めて、通年開催になりましたが、他県のように短期の開催であっても、如何に次につなげるかというテーマは、どこも同じです。美術館の26年度以降の事業説明もありましたが、これを未来志向で如何につなげていくかを、是非考えていただきたいと思います。

県の教育委員会で、教育振興プランの検討委員会が開催されていますが、今日は教育委員会の方もいますので、館長さんがおっしゃった教育現場と連携について、美術館の悩みも聞いていただいて、この連携は活発にすることが重要と思います。いずれにしましても、美術館、指定管理者の計画するプログラムがどのように次につながっていくか期待しています。

#### B委員

県立美術館は小さな県の美術館なのにすばらしいと思います。以前にロダンの弟子だった人の企画展をやっていましたが感激しました。いろいろな企画がありますが、その中で、ひとつ、ふたつは特にすごいものをやるというのもいいかと思いません。

教育現場との連携の話がありますが、今、総合的な学習の時間というのがあります。これは9科目のどこにも属さない科目です。一般の方には理解されていないと思いますが、これを有効に使うのが重要でして、例えば美術館でも文学館でも出向いて経験をさせる。そして子供を受け止めて文化の意識を高めることが有効になると思います。ところが学校も、すごく忙しくて、しかも移動の手段が難しい問題があります。でもせっかくいい教材があるので、うまく利用することを先生には考えてもらいたいです。美術館も限られた職員で、これだけ豊富な企画をやっていると感心しています

#### L委員

教育プログラムは内容も量も充実していて、館長さんからは減らしたいとお話しでしたが、子供を相手とした事業は結果がすぐ現れるものではないと思います。幼いときに教育プログラムに参加した子供さんは大人になっても、美術館に親しみを感じると思います。

教育現場でも先生は、美術館教育を紹介していますが、忙しくてなかなか参加できない現状があります。教育プログラムをこれだけ充実させるのは大変だと思いますが、これを継続することで、近い将来、山梨県の文化芸術の底上げになっていくと期待しています。

#### M委員

私は1年生の娘がいて、夏休みには「みな美展」などに参加しました。去年と比

べて、すごくレベルが上がって驚きました。ワークショップも親子で参加できて本当によかったです。ひとつお願いですが、小さいこどもは自分の作品が展示されると。それを探すだけ、あるいは友達作品を見るだけで終わってしまいます。同じ教材でも、子供によって作品は全く異なるので、その違いを大人が教えてほしいと思います。皆が同じ事をしなければいけないのではないということ、美術教育のなかで教えていくことが、いじめを無くすことにもつながると思います。

それともうひとつ、以前、横浜の美術館でのことですが、私の前にいた家族づれに小学校3～4年くらいの女の子がいてガムを噛んでいた。すると監視スタッフがティッシュを持ってきて、女の子と同じ目線にしゃがんで、この展示室にはゴミ箱がないのでと謝ったり、これを使ってはと丁寧に説明していて感動しました。一方、県立美術館では、監視の方はプロ意識もあるのだろうが、今年、子供と来館したときに注意されていやな思いをしました。スタッフには子供の気持ちになってもらいたいと思います。

今年は、冬に動物展があって楽しみにしています。キッズプログラムの担当は本当に苦労しているので、今後も手伝いたいです。

#### N委員

平素から美術に触れることができるとういのはとてもいいことだと思います。私どもの学校の近くにも笛吹市青楓美術館がありまして、生徒が、そこで模写をしたり、模写した作品を飾ってもらったりとか、近くにあればそういう交流ができます。以前に県立美術館の出前授業で学芸員2人来てもらって、6年生の最後の思い出作りということで、等身大の絵をビニールの上に描くのを、親子一緒にスキンシップもあって良かったです。近くにあればいいのですが、美術館が遠いと移動も大変で、出前授業とか、近くの美術館で体験できるといいなと思いました。

#### M委員

美術館のポスターには、すばらしいものが多いので、これを公用車などに貼って宣伝することも考えてもらいたいです。

議事に関する、事務局からの説明を、委員が了解した。委員から示された意見等について、事務局で検討することを確認し、終了した。